

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児保育 I Child Care for Disabled I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会的養護、発達心理学Ⅰ、子どもの保健Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	火・水・木・金曜日の9時～17時		授業中に指示します
授業の概要				
フーマライゼーションの理念の下、障害を持った子どもの保育は障害児施設だけでなく、保育園・幼稚園でも一般化してきている。障害児保育の歴史、理念、様々な実践を学ぶことを通して、特別に支援を要する子どもたち一人ひとりを理解する目を養い、子どもの実態に沿った支援を考える。				
授業の目標				
特別な支援を要する子どもを「～できない」というイメージで理解するのではなく、社会参加を権利として「～すればできる」という考え方ができることが大本であるが、そのために、障害を持つゆえに社会参加しづらい生きにくさ、言い換えれば自分勝手や努力の問題とは別の次元での困り感があることを理解できるようにする。そして支援の工夫は子ども一人ひとり異なり、一人ひとりをよく理解する努力が必要であることを理解できるようにする。				
授業の方法				
基本的情報を提供した後、各回の事例について自分なりの支援法を考えることにより目標到達を目指す。その際、特別に支援を要する子どもをより具体的に理解できるよう、DVDなど視聴覚教材を活用する。また、ゲストスピーカーとして保護者の立場から、障害を持つ子を育てる大変さ、育児の喜び、家庭での工夫の具体例を話してもらい、包括的理解を目指す。				
学習の成果(学習成果)				
①「～すればできる」との観点から、支援法を工夫することができる。 ②支援法を考える際、理解力が少し違い、理解の仕方が違っている場合がある、感覚障害があるなど、1人1人に応じた支援法を工夫することができる。 ③保護者の願いを理解した、支援法を工夫することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方、評価の方法)、障害児保育の理念と歴史・小テスト			
第2回目	知的障害児の保育Ⅰ(知的障害概説と事例研究)・小テスト			
第3回目	知的障害児の保育Ⅱ(ダウン症概説と事例研究)・小テスト			
第4回目	自閉症スペクトラム障害児の保育Ⅰ(概説と事例研究)・小テスト			
第5回目	自閉症スペクトラム障害児の保育Ⅱ(感覚障害の概説と事例研究)・小テスト			
第6回目	落ち着きのない子どもの保育(ADHD概説と事例研究)・小テスト			

第7回目	肢体不自由児の保育(概説と事例研究)・小テスト	
第8回目	視覚障害児の保育(概説と事例研究)・小テスト	
第9回目	聴覚障害児の保育・音声資料・文字資料・小テスト	
第10回目	吃音・ことばの遅れた子の保育(概説と事例研究)・小テスト	
第11回目	障害をもつ子の家庭Ⅰ(親の心理過程概説・「きょうだい」の理解)・小テスト	
第12回目	障害をもつ子の家庭Ⅱ(自閉症児を育てる母親の講話～親の苦悩と喜び～)・ゲストスピーカー	
第13回目	被虐待児の保育(概説と事例研究)・小テスト	
第14回目	関係機関との連携・小テスト	
第15回目	個別支援計画・小テスト	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	16%	ゲストスピーカーの話を聞いて、800字以上の感想文を書いてもらいます。
調査報告書		
小テスト	84%	小テストでは知識の定着を図る穴埋め問題と自分の言葉でまとめる論述問題を出すので、授業の内容をふまえ自分なりの考えを述べてください。6点×14回=84点
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
毎回レジュメや資料を用意します。		
履修上の留意点・ルール		
小テストの時、電子辞書を積極的に活用してください。		